

主催：NPO 法人地球ことば村・世界言語博物館
共催：日本言語学会、慶應言語教育研究フォーラム

言語の多様性はなぜ必要か

—少数話者（危機）言語の研究支援と言語の多様性に関する意識啓発—

ことばが違うということは、日常的には不便なこと、面倒なこと。誰にでも通じることばで話すことができれば、気持ちも分かり合えと考えがちです。グローバル化が進み、共通語がますます重要になってきた現代、そのような便利さの陰で話者数が少ない言語や地域語・方言が空前の速さで失われています。それらのことばについて、私たちはどう向き合えばいいのか。まずもって、たくさんの異なることばがあることは、それを話さない者にとってどのような意味があるのか。

一度失われたことばを取り戻すのは容易なことではありません。ことばの多様性について、本日午前中に「経験豊富な研究者が若手の研究を後押しする機会」としてワークショップを行います。そして午後は「抽象論ではなく、生活の中で具体的にその必要性を再確認する機会」として梶茂樹先生と松浦晃一郎先生にご登壇いただきます。

ワークショップ「少数話者（危機）言語・研究未開発言語研究の推進に向けて」

10時30分～12時30分

講師：

大角翠（東京女子大学）、河内一博（防衛大学校）

呉人恵（富山大学）、長屋尚典（東京外国語大学）

司会：

長谷川明香（成蹊大学）

NPO 法人地球ことば村・世界言語博物館は、ことばとその多様性に関心のある市民が集まり、言語学者や人類学者などの専門家などもメンバーに加え、2003年に立ち上がった文化運動体です。主な活動は「世界言語博物館事業（インターネット上の言語博物館を通して各種情報の提供）」、「地球ことば村事業（交流と討論の場の設定）」ですが、「ことばの多様性を守る活動」として研究支援も目指しています。

記念講演 1（14時10分～15時）

梶茂樹氏（京都産業大学客員教授、日本言語学会前会長）

「無文字社会の文字的コミュニケーション—アフリカでの言語調査から—」

記念講演 2（15時10分～16時）

松浦晃一郎氏（前ユネスコ事務局長）

「言語の多様性はなぜ必要か—ユネスコの取り組みと自身の展望」

主催：NPO 法人地球ことば村・世界言語博物館
共催：日本語学会、慶應言語教育研究フォーラム

梶茂樹

1979 年～2004 年 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

2004 年～2016 年 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

2016 年～現在 京都産業大学共通教育推進機構

日本学術会議会員（言語・文学委員会委員長）、日本語学会（前会長）、ベルギー王立科学アカデミー会員、世界アフリカ言語学会（理事、アジア地区代表）

松浦晃一郎

1959 年 東京大学法学部中退 外務省入省

1994 年 駐仏大使

1999 年 ユネスコ事務局長（第 8 代）就任

2009 年 同上 退任

現在（公益財団法人）日仏会館理事／立命館大学博士／（株）パソナグループ社外役員／アフリカ協会会長、ハーヴァードはじめ 50 以上の大学の名誉教授・『世界遺産』『アフリカの曙光』など著書多数